

## 「令和5年度あいち環境づくり推進協議会」会議録

日 時：令和5年8月30日（水） 午後2時から午後3時45分まで

場 所：愛知県自治センター4階 大会議室

出席者：構成員 17人、事務局職員 12人、傍聴者 0人

概 要：

### 1 開会あいさつ

愛知県 川村環境局長

### 2 議事

#### (1) 構成員（出席者）紹介

出席した構成員から、自己紹介（団体紹介）があった。

#### (2) 第5次愛知県環境基本計画の進捗・構成員との取組事例について

資料1から資料3に基づき、事務局から説明を行った。

#### 【主な質疑・意見等】

##### ((一社) 環境創造研究センター 清本専務理事)

資料3に「あいち COOL CHOICE」県民運動が掲載されているが、当センターは愛知県の地球温暖化防止活動推進センターに指定されており、愛知県と連携しながら、「夏休み！おうちでエコアップ大作戦」や「ストップ温暖化教室」などを、主に小学生を対象に行っている。

今年度もこうした事業を推進しており、「夏休み！おうちでエコアップ大作戦」は、現在愛知県内の70校の小学校から申込をいただいております、8,000人強の方が参加申込をしている。

また、当センターでは、省エネ機器の導入や家庭の断熱構造改修など、県民の皆様のライフスタイルを変えていくための普及啓発活動を行っている。

併せて、中小企業の脱炭素経営、特にCO<sub>2</sub>排出削減について、少しでも中小企業の皆様に支援できるよう、専門家を派遣して省エネ相談や省エネ診断を実施するなど、企業の省エネの実践に繋がるような活動を行っている。

以上、資料の補足として当センターの取組の紹介をさせていただきました。

##### (NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長)

当団体は、資料3の「2 自然との共生」に掲載されている「生態系ネッ

トワーク協議会との連携」の取組において、一部の協議会に加盟している  
いろいろな活動を行っており、また、「4 安全・安心の確保」に掲載の「三河  
湾環境再生プロジェクト」に2012年の事業当初から参画している。今年も  
10月に田原市で行われる三河湾大感謝祭に出展する。

それから、「5 行動する人づくり」に掲載の「SDGs 推進フェア」にも毎  
回参加しており、今年も10月の5日から7日にかけてブースを出展する。  
皆様には、三河湾大感謝祭と併せて、もし時間があればブースにお越し  
いただければと思っている。

最後に、この「行動する人づくり」の中で、「かがやけ☆あいちサステ  
ィナ研究所」の成果発表会が掲載されているが、これは特筆すべきイベン  
トだと思っている。

これは、大学生が企業から提示された課題に対して取り組んで、その解  
決策を見つけるという試みだと思うが、高校生に対する取組もあったと思  
う。高校生でも取組を公開するような事業もあっていいと思うが、いか  
が。

#### **(事務局)**

本県では、高校生の環境学習について、毎年度3つの高校を選び、地  
域の環境問題をいろいろ研究していただくとともに、その成果を啓発用資  
材として作成していただき、それらを貸し出して活用してもらおうとい  
う取組を行っている。

#### **(愛知県 川村環境局長)**

環境学習について補足すると、未就学児から段階を経て、高校生、そ  
して大学生としてこのあいちサスティナ研究所、またその後、成人向けに  
もいろいろな環境学習の取組を行っている。ご関心があれば積極的にそ  
ういった場も活用していただきたい。

### **(3) 構成員からの取組紹介**

#### **・地域脱炭素及び熱中症対策について**

資料4に基づき、環境省中部地方環境事務所 曾山環境対策課長から説  
明があった。

#### **【主な質疑・意見等】**

#### **(愛知県 川村環境局長)**

市町村といろいろ関わりのある県の立場から発言させていただく。

クーリングシェルターの関係で、市町村では、環境部局が担当するという流れもあれば、命に関わるということなので健康管理部局が担当するという流れもある。担当部局について、少し市町村に戸惑いがあるようなところもあり、説明会等を開催する際には、クーリングシェルター指定の趣旨の説明など、丁寧に行っていただけるとよい。

**(環境省中部地方環境事務所 曾山環境対策課長)**

環境省側もそこは非常に注意している。実は昨日、今までバラバラだった自治体のメーリングリストを1つにまとめるという作業を行ったところであり、これから国から出す情報については、関係部局のメーリングリストに一括して送付させていただく。環境部局や保健部局など、関係の部署に一斉に届くような形をとらせていただくこととしている。

#### ・しげんさいせいネットの取組について

資料5に基づき、(一社)循環資源再生利用ネットワーク 山本専務理事から説明があった。

#### 【主な質疑等】

**(環境省中部地方環境事務所 曾山環境対策課長)**

以前から食品リサイクルに取り組まれているとのことで、明日の(しげんさいせいネット主催の)セミナーには私も行かせていただこうと思っているが、今年度のテーマとしてプラスチックの問題を取り上げようと思った趣旨を教えてください。

**((一社)循環資源再生利用ネットワーク 山本専務理事)**

プラスチックの問題は、これから、いろいろな事業者、また、いろいろな立場から考えるテーマだと思っている。

プラスチック新法も策定されたが、簡単に言えば、もうこれ以上ものを出さない、燃やさないということが要になる。消費者としての立場でどういう取組をするか、また、つくる立場でどういう取組をするかということだが、それぞれ難しい問題で、いろいろな取組の仕方があると思う。その第1のきっかけとして、今回のセミナーを開催させていただき、いろいろな立場の方と、この後具体化できるように進めていきたいと思っている。

**(愛知県 川村環境局長)**

いろいろな取組をされているが、最新の知見や取組のノウハウなどはど

こちらから得られているのか。

**((一社) 循環資源再生利用ネットワーク 山本専務理事)**

当団体は異業種のネットワーク組織であり、それぞれの立場の皆様がいろいろな課題を持っており、また、例えば中間処理でリサイクルをやられている会員さんなどは、いろいろな最新の技術を持っている。

事務局のしげんさいせいネットだけで、いろいろな課題の提起・技術を活用した取組の具体化をできるわけではなく、ネットワークの組織の中で、この先、どんな取組ができるのかをネットワーク組織全体で具体化を進めている状況である。

**・愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会の取組について**

資料6に基づき、愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会 秀島委員長から説明があった。

**【主な質疑・意見等】**

**(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長)**

この企画委員会の取組かわからないが、企画委員会のメンバーの先生で、お祭りをターゲットにして、現場でいろいろな取組を行われている方がいる。

私も毎年半田市で行われる祭りなどに行っているが、私が注目しているのが防災であり、それをやっている組織、特に半田市亀崎の潮干祭りなどに行くと、祭りをやっている団体＝防災組織的な感じも受けて、非常に貴重な、持続可能な地域づくりと密接に関係しているイベントもあるように思う。

今年度、企画委員会として何か面白い企画があれば、いくつか挙げていただけないか。

**(愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会 秀島委員長)**

最初のお祭りの件はこの企画委員会の取組ではない。

前年度まで別の先生がこの企画委員会の委員長だったが、事情があってお辞めになり、急遽私が委員長になったこともあり、今年度の企画が少し遅れている。今のところは具体的なものはない。

それから防災という話だが、資料2頁に示したとおり、環境のみを専門にしている先生の方がむしろ少ないぐらいで、教育学の先生もいれば、私は防災もやっている。防災と環境は密接に繋がっていると私も強く感じて

いる。

また、文化人類学とか、生物多様性について関心を持っている先生とか、先ほどSDGsリレーシンポジウムという話をしたが、毎回大きく違うテーマでシンポジウムを行うことができていることが特徴であり、SDGsに適っていると捉えている。

- ・ あいちエコアクション・ポイント事業及び環境学習事業について
- ・ 三河湾環境再生プロジェクトについて
- ・ 「あいち地球温暖化防止戦略 2030（改定版）」の推進について
- ・ 食品ロス削減の推進について

資料7から資料10に基づき、事務局から説明を行った。

#### 【主な質疑・意見等】

((一社) 中部経済連合会 岸社会実装推進部長)

資料9（「あいち地球温暖化防止戦略 2030（改定版）」の推進について）について2点ほどコメントさせていただく。

まず、再生可能エネルギーの普及拡大については、太陽光パネルの寿命が来た後、うまくリサイクルする必要がある。

今はまだ少ないが、これから数年、もしくは10年経つと、急激に大量の廃棄処分が必要となるため、ここへの対応を進めていただきたい。

既に愛知県の中でも、おそらく資源循環推進課でこういうことをスコープとして考えていると伺ったことがあるが、リサイクルの事業者、いわゆる静脈産業の事業者を育てることも含めて、早くから対応していただきたい。

もう1つ、中部圏の低炭素水素認証制度をつくっていただき、事業者として感謝申し上げます。

事業者がいかにクリーンな水素をつくっているのか、提供しているのかをしっかりと認めていただけると、買い手側の企業から見たときに分かりやすいということになるため、こういった認証制度を分かりやすく創っていただくということは非常にありがたいと感じている。

そこに関連して、例えば認証の基準をどうするのかという考え方について、資料9の17頁の真ん中くらいに記載の「低炭素水素の考え方」があり、おそらくこれは「グリーン水素」と読み取れると思う。

国では、この前の4月のエネルギー・環境大臣会合、それから5月のG7広島サミットでも、世界に対して、グリーンとブルーの一部を合わせた

「クリーン水素」の線引きの考え方を日本が主導していくことを宣言している。

そういったところを基準として設けるのか、必要に応じてご参考にしていただければと思う。

**(愛知県 川村環境局長)**

太陽光パネルについては先ほどおっしゃられたように資源循環推進課の方で、あいちサーキュラーエコノミー推進プロジェクトの中で太陽光パネルのリサイクルに焦点を当て、企業のみなさんと一緒に取り組んでいる。そちらの方もしっかり進めて参りたい。

それから、中部圏低炭素水素認証制度の方も、昨年度までは愛知県だけで取り組んでいたが、岐阜・三重にも広げて、今年度からは中部圏ということで広く取り組んでいる。

ご指摘いただいた「クリーン水素」なども含め、いろいろ勉強しながら進めて参りたい。

(4) その他

なし

以上